

平成25年度 津山市立院庄小学校 学校評価書

校長 尾島 邦雄



1 自己評価

I 評価結果及びII分析・改善方策

I 子どもたちにとって「楽しい学校」「楽しい学級」を創る		
① わかる授業づくりを行い学力向上をめざす ②喜びや悲しみを共有できる、寛容な集団づくりをする		
達成基準	成果と課題	評価
言語活動の充実をめざし、ICT機器を活用して効果的な学習を行う	ICT研修は、県センターより年間通して講師の先生を招聘し計画的に研修が行われた。11月には、ICT研究会を行い校外から多くの先生方の参加もあり、大盛会だった。全教員の技術も大きく向上し、日常的に視覚支援による学習効果をあげている。	A
めあてとまとめのフラッシュカードを使った授業を毎時間行う 宿題等の100%提出(西中ブロック統一取組)。	「めあて」と「まとめ」のある授業は、全クラスで定着してきており、児童がその時間の見通しをもって授業に取り組んでいる。宿題などの提出は努力しており、100%提出をめざしている。	A
年間100冊以上の読書達成を行う。	2学期末現在183名中73名が達成した。200冊以上は16名だった。300冊400冊500冊達成した子もいる。学校支援ボランティアの読み聞かせ活動(週1回)が定着してきており、子どもたちの楽しい時間となっている。	B
「チャイムのはじまりの合図」を合言葉に時計を見ながら動く。	子どもたちは時計を見ながら行動が習慣化されてきている。朝のはじまりや20分休みの後などチャイムが鳴る前に運動場から教室に入る子どもたちの姿が見られる。低学年も高学年の様子を見て同じよう行動することで習慣を身につけている。	A
毎週水曜日のゆとりタイムには、のびのびと外で遊ぶ。	児童が外で体を動かして遊ぶ姿が多く見られた。「ゆとりタイム」には、教員も運動場に出て遊びの輪の中に入っている。それぞれの遊びをとってもよい表情で楽しんでいる姿が見られる。体力作りだけでなく、遊びを通しての人間関係もはぐくんでいる。	B

II 保護者・地域の方々にとって「安心・安全な学校」を創る		
①学習面、生活面すべてで安心して子どもを任せられる信頼関係を構築する		
児童会を中心にあいさつ運動を毎月行う。	児童会が毎月3日間実施している。月ごとにめあてを決めおこなっている。期間中はどの児童も頑張っている。期間中だけでなく、日常的な習慣にしたい。	B
職員室への入室時マニュアルを作成し実施する。	職員室入室時マニュアルは定着してきている。「学年・名前・用事の内容」を丁寧な言葉で言うことで後に続く言葉も丁寧になっている。時と場所に合わせた言葉づかいや態度の育成に効果をあげている。	A
くつをきちんと揃える。	昨年12月よりの取り組みである。くつ箱にかかとを合わせるためのしるしをつけて取り組んでいる。しるしを見ることで、意識してくつをきちんとそろえることができています。	A
話をせず、もくもくと掃除を行う。	毎週木曜日の掃除では、黙って掃除を行う「もくもくそうじ」を実践している(1月より)。子どもたちは、「させられる掃除」から「する掃除」へと自分で判断し行っている。黙働で動く「心を磨く」時間となっている。	A
院庄地区民生児童委員(10名)との連携を図る。	9月13日には、学校をあげて「民生児童委員と学校との連絡会」を行い、子どもたちや地域の様子を情報交換ができた。日頃の連携もできている。	A
学校便り、学校ホームページ等で児童の様子等を	学校だより(月一発行)・学校HPで学校や児童の様子等をこまめに紹介することで、学校に関心を持ってもらっていることがきている。	A

発信する		
------	--	--

Ⅲ教職員にとって「組織で動く学校」を創る

① 内組織が一枚岩で実働化するようにする

週一回の学校運営の会 (校長・教頭・各主任)を行う。	学校行事や学年の様子などを話し合い、情報を共有することができた。多忙の中、時間の確保が課題である。	A
全職員(全職種)が経営案を作成する。	学校は多職種で成り立っており、自分の職務に誇りを持って取り組むことが学校にとって大切と考える。	A
小中連携を推進する。	校長会・教頭会・教務主任の会を開き、学習・生活において連携した取り組みを行っている。情報交換も密にできている。	B
保育園・幼稚園・小学校の話し合いを月1回持ち、共通理解を深め、指導を行う。	日常の取り組みについて情報交換を行い、連携に役立てている。また、新入生について、小学校入学時の不安の軽減、落ち着いた学習環境づくりに成果を挙げている。	A

2 学校関係者評価委員会

政岡 哲弘(連町支部長・学校評議員)	安東 興師(青少年健全育成会長・学校評議員)
福田 真澄(院庄公民館長・学校評議員)	阿形 良崇(清眼寺住職・学校評議員)
小椋 宏昭(保護司・学校評議員)	政岡千恵美(主任児童委員・学校評議員)
日原かおり(院庄小学校PTA会長)	

3 学校関係者評価

I子どもたちにとって「楽しい学校」「楽しい学級」を創る

- ① わかる授業づくりを行い学力向上をめざす
② 喜びや悲しみを共有できる、寛容な集団づくりをする

達成基準	成果と課題	評価
言語活動の充実をめざし、ICT機器を活用して効果的な学習を行う めあてとまとめのフラッシュカードを使った授業を毎時間行う 宿題等の100%提出(西中ブロック統一取組)。 年間100冊以上の読書達成を行う。 「チャイムははじまりの合図」を合言葉に時計を見ながら動く。 毎週水曜日のゆとりタイムには、のびのびと外で遊ぶ。	I・子どもたちが落ち着いてしっかりと学習に取り組んでいる。 ・授業に臨む先生方の姿に余裕が感じられる。また、子どもたちにもその余裕は伝わっており堂々とした構えで学習ができている。 ・実物投影機での授業は、効果があり、評価できる。 ・学力テストでは徐々に学力が上がっている様子が数値的にも表れている。 ・子どもの学力の向上は、対応の適切さと調和のとれた状況があるからだと感じられる。 ・参観日の様子を見ると保護者の参観する態度やマナーがとてもよく、好感が持てる。	A

Ⅱ保護者・地域の方々にとって「安心・安全な学校」を創る

①学習面、生活面すべてで安心して子どもを任せられる信頼関係を構築する

児童会を中心にあいさつ運動を毎月行う。	・自主性や自発性が間違いなく育ってきている。 ・適切な時期に適切なしかけを行うのでうまくいく。	A
職員室への入室時マニュアルを作成し実施する。	・「黙働掃除のよさ」はやがて自分で考えて自ら動くことにつながるように思う。子どもたちは、黙々と働くことをむしろ楽しんでしているようだ。	

くつをきちんと揃える。	・一つできだすと次々とできる。波及効果がある。一点突破の効果がある。 ・「徹底」がよい意味でできている。 ・地域とのつながりがしっかりできている。「子どもたちは地域のもの」であり地域が子どもたちに元気をもらっている。 ・地域が学校をサポートしていく。	
話をせず、もくもくと掃除を行う。		
院庄地区民生児童委員(10名)との連携を図る。		
学校便り、学校ホームページ等で児童の様子等を発信する		

Ⅲ教職員にとって「組織で動く学校」を創る		
② 内組織が一枚岩で実働化するようにする		
週一回の学校運営の会(校長・教頭・各主任)を行う。	・組織が一枚岩となって頑張っているのがわかる。 ・「教職員ががんばっている」のを地域の人も認めている。 ・「報連相」のよくできている風通しのよい職場である。 ・様々な教育活動を思い切ってやっていただきたい。 ・先生方が地域行事によく参加してくれる。	A
全職員(全職種)が経営案を作成する。		
小中連携を推進する。		
保育園・幼稚園・小学校の話し合いを月1回持ち、共通理解を深め、指導を行う。		

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

学校教育目標「心と体をきたえ、ともに学びあう児童の育成」を達成していくために、校内組織が一枚岩で機能しアシストしながら実働化させ、目標達成を目指す。

1 確かな学力を育成する。

- ①言語活動の充実をはかり、「めあて」と「まとめ」のある見通しの持てる授業を引き続き行う。
- ②ICT 機器を使い、視覚支援によるわかりやすく楽しい授業により、子どもたちの学習意欲を伸ばし、基礎基本の定着を図る。また、教材提示装置を効果的に使わせることで伝える力を伸ばす。
- ③「読書100冊」により、内容的にも充実した読書活動を推進する。
- ④学力テスト・達成度テストを効果的に使い、課題に応じた授業改善を行っていく。

2 自主的に行動のできる子どもを育てる。

- ①時と場に応じたあいさつや言葉遣いができるようにする。
- ②時計を見ながら行動できる子どもを育てる。
- ③くつをきちんとそろえることができるようにする。
- ④黙働によるそうじの取り組みを行っていくことで、自ら考えて動ける態度を育てる。

3 一枚岩で実働する校内組織を作る。

- ①学校運営の会で情報を共有し、教育活動に生かす。
- ②全職員が経営案を作成し、自分の職務に誇りをもって取り組むようにする。

4 地域とつながる学校をつくる。

- ①保幼小中連携を充実させていく。
- ②民生児童委員などの地域の方との情報交換を行っていく。
- ③学校通信やホームページで学校の様子を発信する。